東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2007 年 3 月 23 日

只万有への慈悲として預言者ムハンマド

アッラーは私たち人間を、慈悲と慈愛のもたらすものとして、被造物のなかで最も完成された形で創造されました。さらに、私たちを我欲のはかない欲望や欲求の虜となることから守り、私たちを善へと導く道を教える案内役として預言者を遣わされました。そして最後の預言者として、全ての人々を逸脱の道から救い、正しい道へと導く、ヒダーヤの太陽、預言者ムハンマドを遣わされました。アッラーは相談章で「あなたは、それによって（人びとを）正しい道に導くのである。」と仰せられています。（相談章第５２節）

親愛なるムスリムの皆様。クルアーンでは、預言者ムハンマドがこの世に遣わされたことを、慈悲という言葉で示しています。「われは只万有への慈悲として、あなたを遣わしただけである。」（預言者章第５２節）すなわち、「他の理由のためではなく、万有への慈悲として、特に知性の持ち主である被造物のため、わが慈悲によってあなたを遣わす。あなたが預言者であることは全被造物への慈悲である。あなたは全ての知性の持ち主に、善と救いの道を示すのだ。現世と後世に幸福をもたらす教えをあなたが教えるのだ。そして万有はそれによって益を得る。」という意味です。

エジプトの詩人は、預言者ムハンマドを詠んだその詩で、「ヒダーヤの太陽が昇って　全世界に明かりがもたらされた。時が微笑み、その光に魅了された。」と表現しています。全ての被造物は預言者ムハンマドがもたらしたメッセージのおかげで、無意味であること、目標を持たずにいること、偶然性のおもちゃとなることから救われたのです。そう、預言者ムハンマドは私たち信者にとって慈悲なのです。なぜならそのお方を通して私たちに送られたクルアーンのおかげで私たちは主を知り、いかにイバーダを行なうべきか、アッラーの無限の恵みに対しいかに感謝するべきか、そしてアッラーのご満悦を得るにはどうするべきかを学んだのです。クルアーンは、彼と私たちとの関わりについて次のように述べています。「かれは、あなたがたの悩みごとに心を痛め、あなたがたのため、とても心配している。信者に対し優しく、また情深い。」（悔悟章第１２８節）と語られる。

すなわち、あなた方が罰を受けること以前に、あなた方が悩んでいることすら預言者ムハンマドを悲しませ、心配させる、ということです。預言者ムハンマドはこの上なく情深い預言者であられ、あなた方の苦しみや悲しみをその心で感じられ、痛みを味われるのです。

親愛なるムスリムの皆様。預言者ムハンマドは、ご自身がもたらした教えを否定する無信心者にとってもまた、慈悲なのです。なぜなら、アッラーは預言者ムハンマド以前の民族や部族を、不信心、対抗という理由で滅亡させられてきましたが、このお方を遣わされた後は、その敬意によってそれは行なわれなくなったからです。このことは、無信心者にとって、この世における大きな慈悲です。この点に関しアッラーは次のように仰せられています。「だがアッラーは、あなたがかれらの中にいる間、懲罰をかれらに下されなかった。またかれらが御赦しを請うている間は、処罰されなかった。」（戦利品章第３３節）と語れる。「私はあのお方の道におけるしもべである」と語り、その言葉によって人々を魅了する、イスラームの偉大な思想家であり、アッラーの親友でもあるメヴラーナは、「預言者ムハンマドを語り始めたら、最後の審判の日まで語り続けるだろう」とし、このお方が私たちにとってどれほど偉大なアッラーからの恵みであるかを示しているのです。